

平成 30 年度 第 4 回奈良 ESD 連続セミナー概要報告

- 開催日時 平成 30 年 8 月 21 日(火) 17 時 ~ 19 時 30 分
- 会場 奈良教育大学次世代教員養成センター2 号館多目的ホール
- 参加者 梶原(平城西小)、島(郡山西小)、中尾(平野小)、圓山・大西(飛鳥小)、三木(都跡小)、中澤・長澤(平群北小)、石田(左京小)、中澤(きんき環境館)新宮(平城小)、梶原(ESD 学会事務局)、後藤田(成蹊大)谷垣・糸・丸本・藤井・板口(奈良教育大学院・学部生)北村(奈良教育大)

○内容

- 1 実践報告から研究論文へ ―実践の質を高めるために―
奈良教育大学前学長 長友恒人氏

(1)研究に必要なこと

- ・先人、他の人の研究を調べる。
- ・自分が行おうとしていることを俯瞰的に相対化する。(位置づける)
⇒ **オリジナルであること**
- ・メモ魔になれ。(ただし長文はだめです)
- ・一見無駄と思われることをしなさい。(世の中には無駄なことはない)
⇒ **ただし、無駄と思われることに没頭するな**
- ・研究の目的、方法を明確にする。
⇒ **授業についての実践的研究であれば、クラスの規模、地域性、子どもの実態などを明示する。・・・他で応用するためにも必要**
- ・分類せよ! そして 統合せよ!
(相対化:共通点を見つけよ)
⇒ **幼児であっても 親と他人を区別
甘いと苦いを区別
を分類している → 科学の芽生え
⇒ 資料より : 分類は科学的思考の原点ある。**
- ・自然科学の論文 → 同じ方法で又は別の方法で再現できる。
人文科学の論文 → 厳密に再現することは不可能である。
⇒ **時間をもとに戻すことができない。
人、社会をもとに戻すことができない。
→ アーミッシュの社会においても過去に戻すことはできない。
(アーミッシュの生活を否定するものではない)**

実践報告から研究論文へ ―実践の質を高めるために―

研究に必要なこと

1. オリジナルであること
全く新しい・・・ということは難しい
先行研究(事例)を精査する・・・先達の仕事をリスペクト、自分の研究を相対化する
先行研究に類似しても新規の視点、分析法 etc.があれば、オリジナル性は担保される
2. 目的と方法が明確であること
何の為の研究かを明確にする
条件を明示する
授業についての実践的研究であれば、クラスの規模、地域性(都市・郊外・農山漁村 etc.)、困難児はいるか、等々・・・他で応用するためにも必要
3. 実証的であること
客観的なデータまたは事実が不可欠
4. 分析的であること
分析の手法を明示する
その分析手法の限界を踏まえる
5. 結論と課題が明確であること
分析に基づく結論であること
分析で明確にできなかった点(残された課題)を明示すること
結論に基づく提言があれば、明示する
主観的な結論であってはいけない
単なる報告であってはいけない

事例研究

(誤解のないように:実践報告は実践報告としての価値と重要性がある)

(2) 「エッセイ」と「科学記事」の違いを考察

- ・ 例文 1羽のガラ類が牛乳瓶のふたを開けて、うえのほうのクリームを食べる。
その後多くの町でこの行動がみられるようになった。1羽の鳥が別の鳥の技をもほうすることで広まったのは明らかだ。

- ・ 鳥が「もほう」という学習行動をとったという根拠が示されていない。
- ・ 「明らかだ」と断定するだけの根拠が示されていない。

↓
「エッセイ」である。



(3) 日本 ESD 学会第 1 回大会研究発表要旨集より

- ・ 「ならまちを活用した ESD 活動の実践」

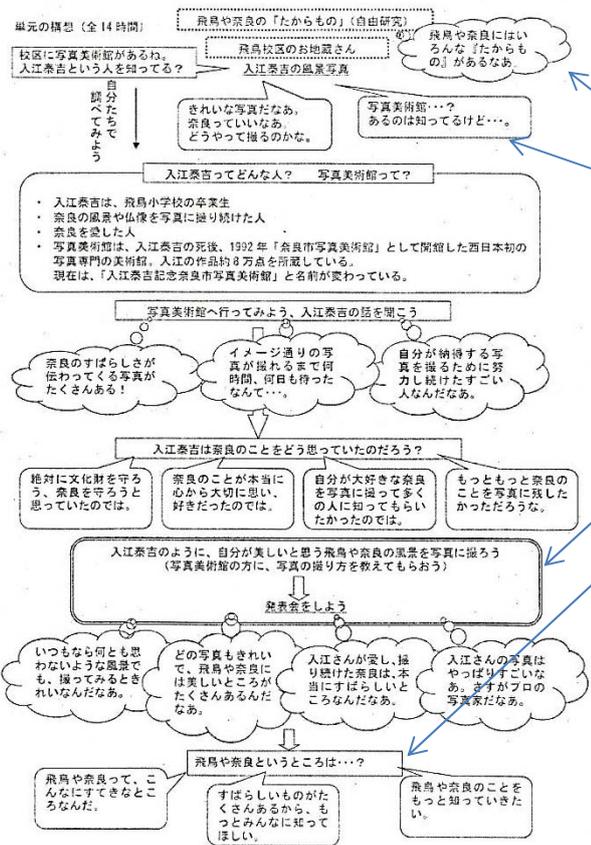
参加した子どもの変容
指導した学生の変容
宿泊から日帰りに変更した結果

ポイントとしては良いが、主観的である。

- ・ 資質・能力の育成 ⇒ この二つを・で併記するのはどうだろうか。
- ・ 学習指導要領 ⇒ ベースにしているが、金科玉条にはいけない。(実践が大切である)

2 単元構想図の表し方

奈良市立飛鳥小学校 大西浩明氏



- ・ 「子どもの思考の流れを追いかけていこう」と始めた。
- ・ 指導案を書く前につくり、後で文字に起こす。
- ・ 持ってほしい思い
- ・ 発言してほしい言葉(出させたい言葉) つけてもらいたい力
- ・ 吹き出しは、多くあればよいものではなく、厳選したほうが 良い。
- ・ 固定したものではなく、実践していく中で変えてもよい。指導案も変えられる。
- ・ 単元の核になるもの
- ・ 発問
- ・ 他の先生と共有しやすい。
- ・ ゴールが見やすい。
- ・ 思いやつけたい力を可視化することも含め、一目で流れがわかる。
- ・ 何を核にするのか。
⇒ 教材、資料、子どもの活動
- ・ 吹き出しの言葉は、
⇒ 学級の子どもをイメージして書く。